

戦略

1

新しい時代を生き抜くための主体性の体得

戦略達成のストーリー

ただ自由に遊ぶのではなく「遊び込む」ことで、自立心や思考力、表現力、共感力、自由な発想力、問題解決力など非認知能力を高めていく。また、遊びを通して人と関わることにより社会性や協働性、主体性を高め、受動的な学びから能動的な学びへ移行することで、一人ひとりの園児の特性や資質を育んでいく。

現在の姿

[園児支援]遊び込める時間と、繰り返し遊びができる場所や時間の確保や園児自らが道具や空間を自由に選択できる環境の提供が課題となっている。

[学びの場]「人的環境」「物的環境」「自然・社会環境」のうち、第一種低層住居専用地域という立地上、自然環境を取り入れた学習環境の提供が課題となっている。

現在の指標

アクティブ・ラーニングの場所や時間の確保 自然を取り入れた学習環境の整備

未整備 検討段階

遊び込むための環境提供

未整備

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
「主体的・対話的で深い学び」の認識の共有		「主体的・対話的で深い学び」に関する研修会参加などによるブラッシュアップ		
グローバルカリキュラムの導入	グローバルカリキュラムの強化	グローバルカリキュラムの充実化		
アクティブ・ラーニング導入の具体的検討		パッシブラーニングからアクティブラーニングへの移行		

達成後の姿

[園児支援]園児一人ひとりが主体性を持ち、非認知能力を高めることで、自分とは異なる価値観や考え方を受け入れ、物事を多面的に捉えることで問題解決能力を身につけるなど、園児たちは新しい時代を生き抜く力を備えている。

[学びの場]特許取得の英語学習方法や園独自のグローバルカリキュラム、アクティブ・ラーニング「能動的学習法」を導入し、園児自らが学び楽しむことのできる環境が整備されている。

評価指標

アクティブ・ラーニングの場所や時間の確保 自然を取り入れた学習環境の整備

完了 準備段階

遊び込むための環境提供

準備段階

戦略

2

国学院ブランドの強化、確立

戦略達成のストーリー

横浜市における幼児の数が減少傾向の中、本園ならではの特徴ある英語教育を実施する他に、横浜市で一番災害に強い幼稚園を目指すことや、給食の導入や預かり保育の拡充など、「保護者に選ばれる幼稚園」となるために、国学院のブランディングを強化して確立していく。

現在の姿

[保育の質]小学校3・4年次の外国語カリキュラムに対応するために、特許取得の英語学習方法を正課教育に導入するとともに食育としての給食提供や預かり保育の拡充を図っている。

[地域貢献]災害時に備え、地域に貢献できる園を目指し、必要と思われる対策を順次整備している。

現在の指標

特許取得の英語学習方法導入

準備段階

食育としての給食提供

準備段階

預かり保育の拡充

準備段階

横浜市で一番災害に強い園となる

60%

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
特許取得の英語学習方法導入の検討と準備	特許取得の英語学習方法導入	特許取得の英語学習方法の習熟		
食育の一環としての給食提供検討	食育の一環としての給食提供の導入	食育の一環としての給食提供の実施		
預かり保育拡充のための準備	預かり保育の拡充			
災害対策の充実化				
ホームページによる広報活動の拡充				

達成後の姿

[保育の質]小学校3・4年次の「コミュニケーションを想定した活動を通した外国語学習」と、5・6年次の「読む」「書く」英語学習に対応した英語教育によって、中学校での文字を使った学習への接続が円滑になっている。

[地域貢献]災害を想定した各種の実地訓練体験の実施だけでなく、園児・保護者以外の地域住民の方々にも対応できる災害対策を講じて、地域社会全体からの信頼を得ている。

評価指標

特許取得の英語学習方法導入

完了

食育としての給食提供

完了

預かり保育の拡充

完了

横浜市で一番災害に強い園となる

100%

入園希望者

50人

戦略

3

園独自のカリキュラムによる国際感覚の醸成

戦略達成のストーリー

これまで日本で重視されてきたサイレントスキルによる「知識としての英語学習」とは異なり、「コミュニケーションを取るための英語」、「翻訳を繰り返さない英語脳」、「丸暗記の必要がない英語」を習得するために、特許取得の英語学習方法とグローバルコミュニケーションカリキュラムを導入することにより、園児の国際感覚を養っていく。

現在の姿

[保育の質] 正課教育の中で園独自のグローバルカリキュラムを導入し、日常的に他文化や他言語に触れる機会を増やしている。

[子育て支援] 園独自カリキュラムの英語課外教室を実施し、サイレントスキルではない能動的学習による英語教育を導入している。

現在の指標

特許取得の英語学習方法導入	能動的な英語教育の実施
準備段階	50%
グローバルカリキュラムの導入	国連英検ジュニアテスト受験者

能動的な英語教育の実施
26人



達成後の姿

[保育の質] 国学院幼稚園でしか学ぶことができない特許取得の英語学習方法を確立し、園児たちの国際感覚を醸成できている。

[子育て支援] 園独自のグローバルカリキュラムによって、多様な文化や考え方があることを日常生活の中で自然と学び、サイレントスキルでは習得困難であったコミュニケーションツールとしての英語による国際感覚が培われている。

評価指標

特許取得の英語学習方法導入	能動的な英語教育の実施
完了	100%
グローバルカリキュラムの導入	国連英検ジュニアテスト受験者

能動的な英語教育の実施
50人

戦略

4

「主体的・対話的で深い学び」を実践していくための教育環境整備

戦略達成のストーリー

これまで幼児教育においても主流だったパッシブ・ラーニング(受動的学習)は、「主体的・対話的で深い学び」およびアクティブラーニング(能動的学習)へとシフトしている。認知能力だけでなく、非認知能力を高めるためにも、園児たちが主体となる環境を整え、幸福度の高い人生を歩むための礎を育んでいく。

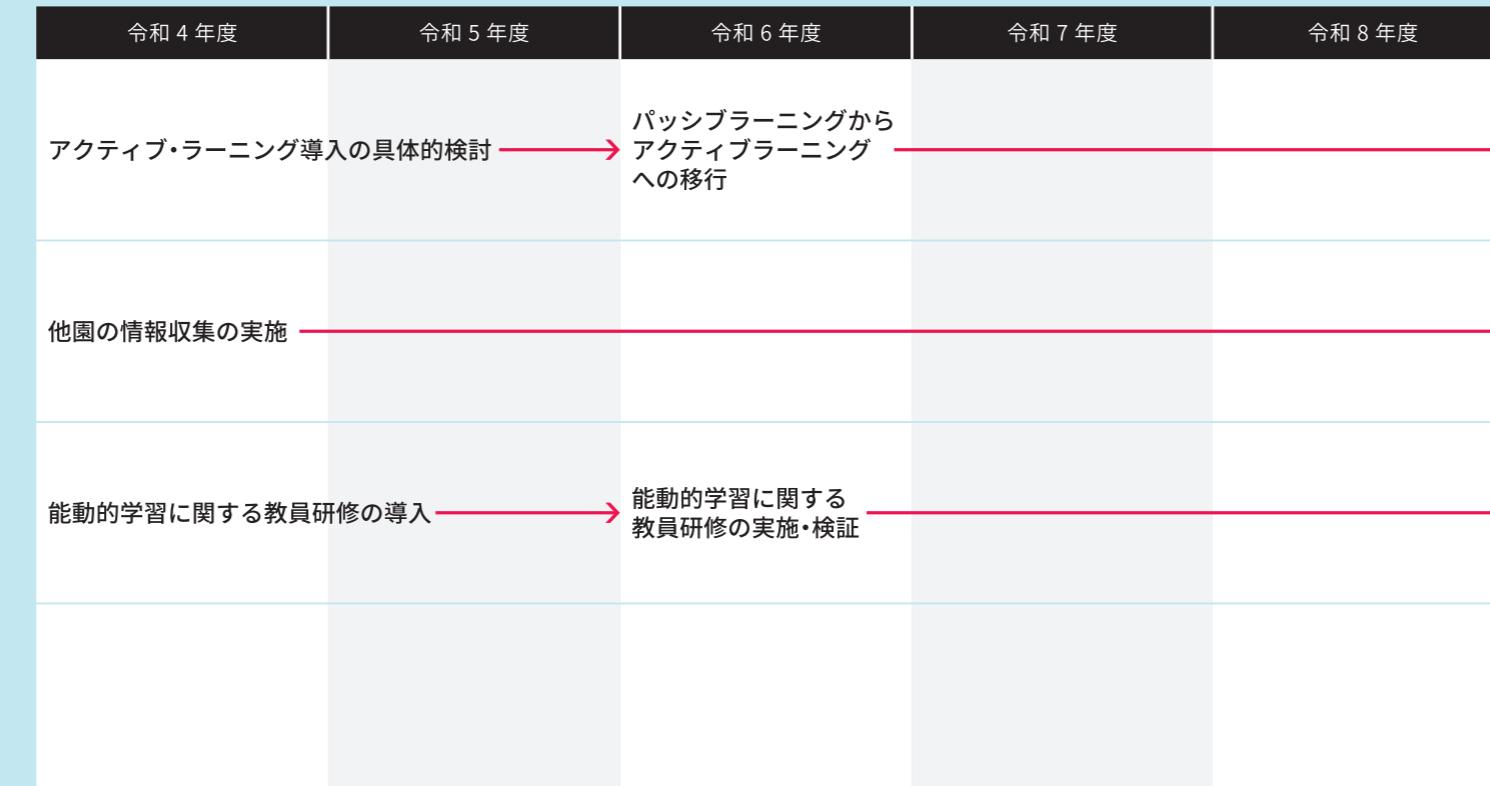
現在の姿

[学びの場] 登園後4時間しか在園しない幼稚園児に対して、どのように「主体的・対話的で深い学び」を実践すれば良いのか模索している。

[園児支援] 認定こども園や保育園でのアクティブラーニングの導入実績を参考に、どのような形で幼稚園に能動的学習を取り入れるべきか、検討している。

現在の指標

アクティブラーニングのための環境整備	能動的学習に関する教員の研修
検討段階	準備段階
アクティブラーニングの導入	



達成後の姿

[学びの場] アクティブラーニングに対応するため、園舎内や各教室の学習環境が整備されている。

[園児支援] ソフト面では、パッシブ・ラーニングからアクティブラーニングに移行し、園児たちが他者や物との関わり合いを深める中で、心を動かされるような体験を通して知識を習得し、探求を続けることで、その知識や経験を生かし、時代の変化に対応できる力を育んでいる。

評価指標

アクティブラーニングのための環境整備	能動的学習に関する教員の研修
完了	完了
アクティブラーニングの導入	

戦略
5建学の精神を礎とした保育理念を
共通認識とした協働体制の構築

戦略達成のストーリー

法人設置校としてのスケールメリットを生かして、国学院大学が掲げる“Know Japan. Know the world.”を全教職員の共通認識として、協働体制を構築する。日本人としてのアイデンティティを持ちながら、多文化共生社会において生きるための力を育っていく。

現在の姿

【教職員組織】建学の精神を大切にし、園児たちが日本の風習や伝統行事に触れる機会を持てるよう努めている。

【組織運営】日本人としての謙虚さを身につけながら、多文化共生社会において世界の人々と関わり合える「真の国際人」を育むことができるよう、新たな試みを続けている。

現在の指標

建学の精神と 神道精神の共通認識	伝統文化 カリキュラムの実施率
50%	60%
Know Japan. Know The World. の共通理解	「真の国際人」に 対する共通理解
10%	20%

令和 4 年度

令和 5 年度

令和 6 年度

令和 7 年度

令和 8 年度

建学の精神と神道精神についての共通認識の徹底

日本の風習や伝統文化を取り入れた
教育カリキュラムの再構築グローバルカリキュラムに対応するための
園内研修の充実化

達成後の姿

【教職員組織】新しい時代の訪れとともに、多文化共生社会においてこそ、建学の精神や神道精神が生かされることを全教職員が共通認識として深く理解している。

【組織運営】多文化共生社会において、異文化に対する相互理解や多文化における相互の尊重の基礎にこそ「主体性を保持した寛容性と謙虚さの精神」が重要であることを全教職員に周知できている。

評価指標

建学の精神と 神道精神の共通認識	伝統文化 カリキュラムの実施率
100%	100%
Know Japan. Know The World. の共通理解	「真の国際人」に 対する共通理解
100%	100%